

演題

No.100189

平成30年度福岡県「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」経過報告2～コミュニケーション支援実習Ⅰと外出同行支援実習の現状と課題～

高橋 雅子¹、金井 孝典²、徳本 郁恵³、谷村 絵美⁴、江藤 信介⁵、山口 護慶⁶、佐々木 哲⁷、灘吉 享子⁸、原田 恭子⁹、佐藤 文保¹⁰

¹牟田病院、²小倉リハビリテーション病院、³北九州市立障害福祉センター、⁴福岡リハビリテーション病院、⁵柳川リハビリテーション病院、⁶たたらリハビリテーション病院、⁷早良病院、⁸麻生リハビリテーション大学校、⁹福岡市立こども病院、¹⁰福岡東医療センター

【はじめに】

平成30年度福岡県「失語症意思疎通支援者養成事業」の必修科目のうち、コミュニケーション支援実習Ⅰ(18時間)と、外出同行支援実習(8時間)の概要と課題を報告する。

【実習の概要】

受講生は18名(会話パートナー経験者一般8名、ST10名、平均54.2歳)。必修科目40時間中、講義と身体介助実習の計14時間は9月15～17日に実施した。残る26時間の実習は、失語症友の会など6団体(以下協力団体)の活動と重ねた候補日(コミュニケーション支援実習:4団体、各2～4.5時間の計31回、外出同行支援実習:3団体、各3.5～8時間の計4回)から規定時間数を満たすよう受講生が選択し、福岡県言語聴覚士会(以下県士会)が調整した。受講生の居住勤務地・実習地は2政令市にほぼ集中していた。実習は毎回、「指導STとの打ち合わせ、支援の実践、振り返り」を基本の流れとした。コミュニケーション支援実習Ⅰでは支援者養成研修の評価用紙を用い、外出同行支援実習では独自に作成したシートで、目的、スケジュール、身支度、移動、買い物、飲食、トラブル対応などの事前確認や実習中・事後の自己/他者評価、フィードバックを行った。実習先の失語症者の一部には聴き取りで簡易アンケートを実施した。受講生の知識と支援技術の向上、意欲を保つ目的で、実習の様子や感想などのニュースレターを発行し、集団フィードバックを行った。受講生と協力団体の相談窓口は県士会事務局とした。

【まとめ・今後の課題】

平成30年度は年度後半の半年で26時間の実習を行った。全員が規定実習時間数を終えたが、質に関しては「1対1の会話や外出同行支援を可能にする」という到達点に向けて様々な点で工夫の余地があった。今後の課題として、評価・指導技法の向上、指導者・時間の確保、一般受講者増加に伴う実習の工夫、事業独自の实習設定、ロールプレイ演習や選択科目での補講、地域の拡大などについて、他県の情報を収集しながら検討していく必要がある。